

《生物多様性国家戦略、地域戦略の手引きの概要》

2023年3月に生物多様性国家戦略 2023-2030 が閣議決定された。

前国家戦略の評価
<p>○目標の達成に向け様々な行動が実施されていることは評価できる一方で、目標を達成した施策の割合が低かったことから今後も行動を継続するとともに更なる努力が必要である。</p> <p>○生物多様性の損失を止め、2050年を目標年とする長期目標「自然共生社会の実現」を目指すには、更なる努力とともに、生物多様性の損失に間接的に影響する社会・経済的な要因やその根底にある価値観と行動に変化を引き起こすための新たな取り組み、そして評価方法を含む国家戦略の構造等の改善も望まれる。</p>

<生物多様性国家戦略 2023-2030>

目標: ネイチャーポジティブ(自然再興)

- 生物多様性損失と気候変動の「2つの危機」への統合的対応、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという危機をふまえた社会の根本的変革を強調。
- 30By30目標の達成等の取組により健全な生態系を確保し、生態系による恵みを維持回復
- 自然資本を守り活かす社会経済活動の推進

<地域戦略の手引き>

国家戦略に合わせて改定する際に期待される地域戦略の役割や策定にあたっての考え方を整理したもの。

- 考え方の大きく変わった生態系サービスは「保全」のみを考えるのではなく、生物多様性の損失及び劣化を止めるためには「社会変革」が必要であること、としている。
- 地域戦略策定の意義は、地域の「生き物保全計画」を作るだけでは不十分であり以下のことが求められている。
 - 自然を使って地域を元気にする。地域課題を解決する。
 - 地域の活力で自然を守り育てる。
 - 多くの取組や主体を巻き込む。